

1、このたびの遠軽町議選にあたり、遠くからご支援に駆けつけてくださいました皆さん、そしてたくさん電話をかけてくださった皆さんに心から感謝申し上げます。

1度に300枚ものチラシ、しかも広い地域をテクテクとくまなく歩いていただきました。連日にわたって来ていただいた方もおられました。本当に申し訳なくありがとうございました。

今回の選挙ほど政策チラシとテレデータの威力を感じられたことはありませんでした。街頭での演説のときでも、訪問した先でも、また、電話での話しでも「チラシ見たよ」「あんたの言うとおりで。がんばって」の励まし寄せられました。

2、今回の選挙は、告示の日から“想定外”のできごとが連日のようにありました。

① 告示日・・・立候補届が午後4時すぎても18人の定員。この調子では、佐呂間に続いて無投票になるかと大方の人たちは思っていたようです。もちろんうちの選対の中にも・・・しかし締め切り直前の選挙管理委員会からの情報で、1人立候補の届けがあって選挙は行われることが判明。よし！と気合が入る。（後日他の候補に聞いたが、ほとんどが無投票と想像していたらしく選挙になってがっかりしたというのが本音のようでした。）

② 突然の雪・・・告示2日目。午前中生田原を終わらせて、昼前瀬戸瀬温泉への交差点にくると信号の先は道路も畑も野山も真っ白に。運転手も初雪にビビッてしまい、丸瀬布、白滝はあきらめて急遽予定を変更して遠軽町内へ戻る。この日白滝は15cmも積もったと言う。（タイヤも心配したが網走に聞いたらスタットレスだった。）

③ 訪問者・電話・・・これまでの選挙には少なかったと思うが、全く見ず知らずの方が事務所を訪問してくれたり、応援の電話をかけてくれたり、もう入れてきたからとわざわざ電話をくれる方が多くあった。



④ 街頭演説への合いの手・・・小春日和の街頭演説では、外にいる人も結構いて、私が話していると「そうだ、そうだ!」「そのとおり!」と合いの手が入ることもあった。また、音が聞こえたから聞きにきたよという人もいた。

そばにいくと「あんたの言うとおりで。ぜひ実現してよ」「わたしらもう先がないから、みんなそれが心配なんだよ」「父さんは〇〇年前に死んで、わしひとりだ」「娘も息子もいるけど遠くてあてになんねえんだ」「子どもは心配だから来いと言うけど、仏さんもいるし、お墓もあるし、ここにいたいんだ」

表面は明るく元気そうにしているが皆さん深刻な問題として抱えている。高齢化率40%近い遠軽の町づくりの中心にしなければと思う。

⑤ 人助け・・・丸瀬布で最後の演説をした時、玄関前で倒れているおばさんを藤川さんが見つけ、そばに行くと「お父さん呼んで」「お父さんはどこいったの」「前田選対に」立ち上がれないというので野村さんが救急車を呼ぶ。

病院へ行くと、大腿骨骨折で緊急手術ということに。病院ではもう少し遅かったら低体温で危ないところだったと言われたようです。（良かったあ）翌日前田選対の若い人がお礼を言いに来ていわく「私の1票を岩澤さんに入れますから」・・・想定外の貴重な1票でした。（藤川さん、野村さんに感謝!）

⑥ 開票結果・・・法定得票に満たず2名落選。議会は1名欠員となる。

[法定得票 = 有効得票 ÷ 定数 ÷ 4]

今回の場合は168票以上でなければ失格となること。まさか自分の町でこんなことが起こるとは。しかも2人も。その結果1名欠員と言うことになってお恥ずかしいかぎり。

チャンスとばかりに定数削減の話が息を吹き返すでしょう。

3、3期目の議席と言うことで「できる範囲でやればいい」ということでは済まされない大きなプレッシャーがありますが、回りの皆さんの運動と共同して「住民の福祉の向上」のために、最後の4年間と思ってがんばることで、皆さんのご支援に応えていきたいと考えています。今後ともよろしく願います。



語りつぐことの大切さを

～軍国主義と戦時下の人びと。その後～ その6 (最終回)

弦巻宏史

天皇制ファシズムと侵略戦争への道はまさに全国民をあげて国家に奉仕させる時代でした。しかし、この地域にも敢えてこれに対峙しさまざまなかたちで闘ってきた人々がいました。例をたったひとりだけあげますが遅しく楽天的に生き抜いた方をあげたいと思います。

○吉岡金八さん (1901～198?年)

吉岡さんは、70歳台で優れた記憶力で詳細な自分史を残し、故山田貞夫氏が文芸北見に連載していますが、今回は私が直接お会いした時に伺ったいかにも彼らしい磊落なユーモアに溢れたエピソードを伝えたいと思います。

彼は小柄ではあるが岩を思わせる頑丈な体躯で表情は実にくちやかで優しさにあふれていました。彼は自分を「ワタリ小作さ」(開墾してまともな土地になると、地主が身内に譲るとか転売するため別の土地へ移転。彼の造語)。奥さんサズイさんは「わしは女タコだったさ」と明るく語っていました。

吉岡さんは香川県の小さな町から大正7(1918)年極寒の津別に入植しました。最初の土地は地味は良かったが大洪水で流されたり、工事の為にはタコ労働者とも働いた。大正13(1924)年下津別達美部落に入植。地主は手塩銀行で初年度は開墾で無年貢。しかし次年度からは不作でも米、麦、大小豆などを納めさせられた。昭和2(1927)年の夏、草取りをしていると銀行の水田指導のひとりW氏が近づいてきて「このままでは小作は浮かばれない・・・」と「団結」を教えてくれた。すぐ全国的な小作争議の情報も送られてきた。

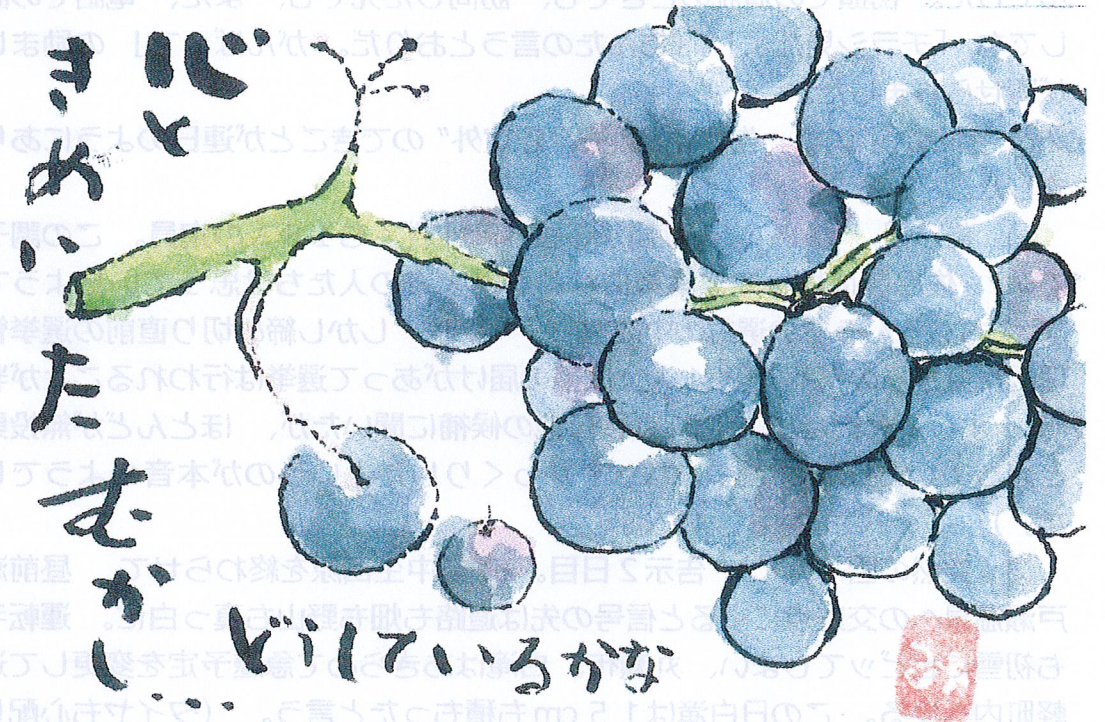
まもなく時々差出人不明の小包がきて開けると伝単(ステッカー)で「小作料さげろ」とか「支那に兵を出すな」など全く同感できるものが入っていました。

弟喜代八さんと電柱に貼って歩いた。早速警察が「お前らだろう」「どこから来た」と責めてきた。然し解らないのだから仕様がな。帰って貰ったら警察は数日後はがしてしまった。だから吉岡さんは喜代八さんと「犬がくわえていった」という伝単をつくって貼った。美幌の警察署で拷問され

皆さんお元気ですか。だんだんストーブの火が恋しくなってきましたね。もう半世紀以上も昔のことを思うとチョッピリせつない気分にもなってきます。やっぱり秋だナ。

絵手紙も奥が深く難しいです。でももっと深刻なのは治安維持法にも似た秘密保護法を成立させようとする勢力の動きです。なんとしてでもこの悪法を阻止しなければなりません。がんばりましょう。

斎藤 稔



前略
教育署名の提出日が近づくと共に日々寒さも増してまいりました。秘密保護法に加えて国家安全保障会議へのたくらみ、さらに解釈改憲による(自衛隊の派遣につなげる)集団的自衛権に画策する政府自民党。心まで寒々するような時節柄ですが、声を大きく挙げなければなりません。

口をつむぐ人が増えると大変な事態になるのは歴史が示しているからです。共に頑張りましょう。

2013・11・19

紅山

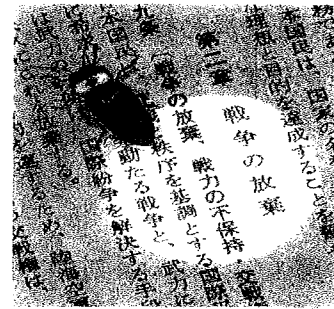
われるのは10分の1の金額でしかありません。まさに“ウソの宣伝”だらけです。

だまって見過ごすわけにはいきません。老骨（老体）にムチを打ってでも闘いに参加しましょう。まずは年金削減の“行政不服審査請求書”の取り組みから運動をスタートさせましょう。年頭の誓いを込めて……。

網走支部支部長 木村正寿

真相は秘密だ

宮津 優



終戦直後ラジオに『真相はこうだ』という番組があった。

アメリカ占領軍の宣撫工作の一環なのだろうが、戦時中に日本国民が政府や軍部にいかに騙されていたかを暴露したものだ。例えば赫々たる戦果を報じた大本営発表は血湧き肉踊る思いと共に「撃ちてし止まん」の戦意を高揚させていたのはニセ情報だったなど、それは実に衝撃的で軍国少年の私にとってはいきなり鉄槌が下されるような思いで震えながら聞いていた。

こういうことが真実だったのにどうして親は兄たちを戦場に送り、学校では天皇陛下ののために命を捧げて国を守るのだと教えていたのだろうか。

このため日本では310万人が戦没し、アジアでは2千万人が犠牲になった。それなのに大人たちはこんな無謀な戦争をなぜ止めなかったのか。そのわけを親や先生に尋ねても納得のいく答えを得ることができなかった。

今思うと当時14歳だった私はただただ悶々とし大人不信にさいなまれていた。

しかし、間もなくして戦争放棄を誓った憲法ができた時、平和と民主主義が国是となったことに希望と勇気がわいた。爾来70年近く日本は不戦を貫いてきたのだ。

だが、昨今の風潮を鑑みると「積極的平和主義」とのもと秘密保護法⇒集団的自衛権行使容認⇒憲法9条改悪と戦争する国づくりへの流れが懸念され、戦前に逆行していくようで恐ろしくてならない。

「なぜあの時に大人たちは戦争への道にノーと言わなかったのか」と孫たちの世代に責められないよう、私はこの1年も歴史の教訓を愚直に語り伝えていきたいと思う。

た。警察が投げ飛ばそうとして組んだが彼がぐんと腰を下ろすと投げられず崩れて余計腹を立てたりした。

お盆には津別や美幌から自転車で北見の学習会に参加したり、佐呂間や常呂の小作人や貧農に麦や芋や南瓜をカンパした。いくつかの闘争の未逮捕され北見署で拷問を受けとうとう警察は「農民組合はまだいい。しかし、おまえらはアカ(共産党)に動かされているんだ。」共産党は如何に悪いものかを説教された。吉岡さんは、日本共産党の存在を知り信頼を寄せるようになったという。獄中でも仲間と監守に「おまえら米作りの百姓に麦だの芋だの食わせるのか」と抗議したり、交替でトイレに連れて行けと、彼らを夜も休ませなかったりさまざまな抵抗をしました。

吉岡さんは敗戦（1945年8月）まで転々とするところがありましたが、いつも身内の生活のためばかりでなく、他の農民の力になったりしてきました。戦後は北見市で「生活と健康を守る会」の礎となって活動されました。

5、むすびにかえて

昨年2月11日にお話しさせていただき、はや1年経とうとしています。この短い間に安倍内閣は反動化を粗雑にまっしぐらです。全く許せません。例えば特定秘密保護法はかつての治安維持法以上の悪法です。かつて北見のキリスト教会に見慣れぬ礼拝者が来て、あるキリスト教徒を天皇を崇拜しない者として密告したらしいのです。調べられた敬虔な信者であった彼は悩み苦しみに信仰を断ちました。それでも、家族の子どもたちまで「ウメボシ」とあだ名されました。（スパイ⇒スッパイ⇒梅干）。彼は戦後もその良心が故に苦痛に満ちた人生を歩んだのです。

近現代、特に昭和の歴史をとらえなおそう。家庭で地域でとりわけ学校で「戦場」「戦時下」「加害と被害」などの真実を直視して伝えよう。

真の平和と民主主義、連帯のために謝罪と償いをかちとり信頼ある和解をすすめよう。ささやかでも力を寄せ合おう。

日本国憲法を今日どんなに大切かを深くつかもう。そして、どんなに明るい展望のある時代であるかを知ろう。

できるところからとりくみましょう。私は孫子に残すものはありません。平和で自由で民主的な社会としあわせな生活を願うばかりです。

長い間お読みいただき、ありがとうございました。

・菊の香も自民圧勝からきなくささ続いていますね。しかし共産党の躍進で努力が実った豊かな香りがします。

・過日の遠軽町議選での岩澤議員3期目誕生に喜んでおります。万歳！！ですね。

・署名遅れましたが完了しましたので送付いたします。身内の者、家に来てくれた方(忘れないように玄関に署名用紙を置いておく)など工夫しました。(2人で取り組みました)

・2013年1月からクロカンスキー7大会に挑戦し、5月からマラソン4大会に朝鮮することができました。10月20日からローラースキー滑走しております。楽しく汗を流し体調維持目標にしています。

・10月14～17日恒例の2人旅です。冬季滑老大会の地を訪れます。今年は帯広中心に温泉巡りでしたが帰途あいにく台風26号の北上と競争するよう一目散に逃げ帰って来ました。途中降雪にあい難儀しましたが。

・「キリギリス鳴かせておいて霜月に」

10月31日ローラースキー滑走中に耳にしたことです。この日14度でした。

田中 和佳子 ・ 功

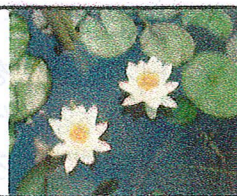
ゆきとどいた教育をもとめる全国署名

今年もたくさんの皆様にご協力いただきました。

石崎さん、田中さん(2人)、小竹さん、菊地さん、福井さん、奥野さん、小川さん、谷藤さん、曾我部さん、山本さん、養島12名の方から届きました。奥野さん、曾我部さんからは50筆、田中さんからは40筆届けていただきました。今年は286筆集まりました。木村さんから届いた55筆は来年にまわします。

訃報

北見ブロック岡村功さんが平成25年10月30日逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。



会計から

今年度も12月までに会費を完納していただきありがとうございました。会員の皆様のご協力に感謝いたします。(奥野)

銀河

全北海道退職教職員の会網走支部通信

No. 95 2014年1月10日

道退教網走支部事務局

〒090-0836

北見市東三輪1丁目83-35

TEL 0157-31-7551 FAX 0157-31-7559

*組合員の皆様

「あけましておめでとうございます」

“おめでとう”と言われても、心から喜んで新年を迎えた人は少ないだろうと思います。それほどまでに年末から新年にかけての「安倍内閣」の仕打ちと行動はすさまじいものがありました。

多くの国民の反対の声を無視して強行した「秘密保護法」。電撃的に行動した「靖国神社」の参拝。「暮らしを犠牲に戦争する国」へ突き進む2014年度の政府予算案。庶民には増税。反対に大企業には減税。そして軍事費の増大。こんな予算案を誰が喜ぶのでしょうか？

内容を少し詳しく見てみましょう

○国民(庶民)には増税

- ・消費税が5%から8%へ→総額8兆円
- ・「年金」の2, 5%削減→総額1兆3千億円
- ・「生活保護費」の削減と支給制限
- ・「介護保険」の要支援は増し
- ・70～74歳の医療費窓口負担を段階的に2割に引き上げ などなど

○大企業減税と軍事費の増大

- ・「復興特別法人税」を1年はやく廃止
→約1兆円
(内部留保は260兆円もあるのに)
- ・交際費の半額は無税に
- ・軍事費の2年連続増額
→約4, 9兆円 などなど

主なものを 見ただけでも上記のとおりです。

政府は『消費税増税分は社会保障の充実へ!!』と宣伝しておきながら、実際に使

